ボーイスカウト都窪第2団

第25回世界スカウトジャンボリー

Japan Contingent
SaeManGeum, Korea 2023
日本
25th World Scout Jamboree
25e Jamboree Scout Mondial

2023年8月1日～12日
韓国・全羅北道セマングム

世界から‥4万3000人
日本から‥‥ 1,568人
岡山から‥‥‥‥ 26人
ツクボ第2団から‥ 4人

158の国と地域から集まった青少年が、自然の中で生活を共にし、プログラムを体験しながら、友情の交流を深めました。

ボーイ隊 三宅蘇芳

25WSJに参加しての報告書
都窪第２団　ボーイ隊　三宅蘇芳

1.今回のＷＳＪに参加した理由

今回、25WSJに参加したのには３つの理由があります。まず１つ目に24WSJの参加にあこがれたからということがあります。アメリカに派遣団として参加した八木史考ベンチャースカウトの報告書を見て、WSJに対して強い興味を持ったことが１つです。

２つ目に外国人スカウトと交流をし文通やチーフ等の交換をしてみたかったからです。スカウトチーフを２つ以上持つことがなかったので外国スカウトのチーフを付けてみたいという理由や見たこともない外国のワッペンを手に入れたいという理由が２つです。

３つ目にスカウト活動についてもっと知りたかったからです。僕のスカウト活動は基本的に自分の団だけでしか活動しておらず、他の団との交流がないためスカウティングの具体的な内容が分からずにいました。WSJでは国内だけでなく国外のスカウトとも交流があるのでスカウティングについてもっと知りたいと思ったのが３つ目の理由です。

2，WSJに参加して

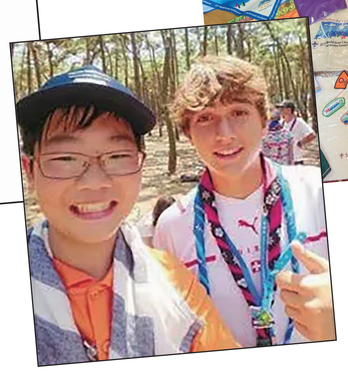
今回のWSJで気づいたことは隊や班の活動の中で４つあります。
まず１つ目は交換や交流についてです。外国人との交流の中でＷＳＪ中は英語で話をしました。僕は英語が得意ではないので、大きな不安を抱えていました。でも実際に交流をしてみるとジェスチャーや相手の表情、リアクションなどで相手の言いたいことは少し分かるような気がして会話も弾みました。僕がＷＳＪ中に一番印象に残った交流はブラジル人との交流で、日本のアニメ「ワンピース」の話で盛り上がり二人で好きなキャラの話をしました。そのときに僕がI like frunky.というと相手はOh! Frunky !very nice.と言いました。そのあとの会話は具体的に何を言っているのか分かりませんでしたが、ジェスチャーなどから好きなシーンの話をしていると思い、僕も好きなシーンをジェスチャーで返しました。すると相手もそのジェスチャーを理解してくれて同じポーズを取りました。最初は言葉が通じるか不安でしたが、ジェスチャーやリアクションで相手の言っていることが伝わったときにはうれしいと同時にその不安が解消されました。交換でもそれは一緒でした。相手が求めている交換品は言葉では分からなかったが、相手のリアクションと表情で大体の言いたいことが分かりました。

２つ目は班の活動時、班員が班長に自分の考えを提案をしていることがすごいと思いました。僕はボーイ隊の班長をしてますが、班員から活動に対しての提案があることはあまりなかったので、WSJでは班長や次長でない人も班活動に主体的に取り組んでいるということがとてもよく分かりました。これは今後、僕たちの隊でも話し合って取り組んでいきたいと思います。

３つ目は汚水やごみの処理についてです。僕の隊では食後の汚れた食器や炊具をそのまま水で洗うので、食べ残しやソースなどが全て汚水バケツに入り、汚水の処理に毎度困ります。WSJでは食器や炊具をまずペーパーでふき取ってから洗うので、汚水バケツにごみが入ることがありませんでした。次にごみの処理についてですが、僕の隊ではごみの分別をせずにほとんどのごみを１つのごみ袋にまとめていました。WSJではごみの分別をしっかりし、ごみの処理に困ることが少なかったです。 この２つの取り組みは自分の隊に戻ってからも伝えていきたいと思います。

最後の４つ目は寺への避難生活についてです。急な避難でも寺の人たちは僕たちに食事や寝るところ、トイレなどの衛生面が整った環境を用意してくれました。他にも寺で住職や職員の方であったときには日本語で「こんにちは」と言ってくれました。急に避難したけれどこういう対応をしてくれるのは僕としてはとても嬉しかったのと、このような対応は僕たちスカウトとしても見習うべきだと思いました。

最後のまとめとして、僕は今回のWSJを経て見習わないといけないことがたくさんあり、そのようなことを経験できたことが一番よかったことです。IST やスタッフ、お寺の方の対応がすばらしくて、そのような態度を見習いたいと思いました。



ベンチャー隊 楢村崚太

アクティビティ
8月3日会場の外へ出て海に行きました。海水浴をしたり泳いで競争もしました。その後岸を上がったとこにあるアスレチックを存楽しみました。簡易的ジップラインが一番楽しかったです。前回大会のアメリカでのアスレチックの話を聞いていたのでそれよりは規模が小さく残念でした。

異文化交流
8月4日元々会場内のプログラムに参加する予定でしたが一定の気温を越したことで会でのプログラムが中止になりました。そこで僕たちの班は会場の中心にある海外の料理店が立ち並ぶフードコートに行ったり、スカウトショップに行きました。フードコートでは韓国店に行きヤンニョムチキンとソットクを食べました。そこにはたくさんのスカウトがおりイギリス人やドイツ人、チリ人と話したり写真を撮ったりして仲良くなりました。

ースカウトショップに入るのに並んでいる神前にいたメキシコ人と買ったキャンディーで会が冷くなって中々とけなっかった

丹陽郡
8月9日丹陽郡というところを観光しました。まず韓国料理屋に行き昼食を取りました。本格的で豪華だったけど辛すぎたものもあり美味しいものだけ食べ他はあまり箸が進みませんでした。その後展望台に行き景色を一望しました。大きい川沿いにある遊歩道を歩いたのちに水族館にも行きました。久しぶりに韓国らしさを体験した1日になりました。

8月10日
この日は午前中避難所である天台宗総本山の救仁寺の住職の方にお話をしてもらいましたがよくわかりませんでした。午後は舞踊鑑賞をしました。パントマイムや韓国舞踊、歌などとても感動しました。その後自由時間でたくさんの他県のスカウトと交流しました。

突然の避難
8月7日に大会運営側が暑さや台風に備えて8日に避難をすることを命じました。スカウトショップに行くスカウトや交流に行くスカウトがいて僕は近くのサイトのスカウトと海いの残らないよう全力で交流し、写真を撮ったり、リュックやハッピ、ワッペンいろんなものを交換しました。仲良くしていたスカウトともお別れかと思うとてもかなしくせっかく来たのに残念で仕方ありませんでした。初日の設営時に隣相撲をした香港のスカウトと最後にプレーしにいって話しました。最後の日だったので他の隊員と一緒に深夜まで出歩き、韓国人と交流しました。

二隊のオメリロ一番仲が良かったオーストラリア人

8月8日
朝から撤営を始め、バス待ち時間にはコンビニ行ったりメキシコ人とバレーボールをしたりして時間を潰しました。昼過ぎに会場を出て日本派遣団の避難場所についたのは夜の9時を過ぎていました。そこでは今までいませんでしたが仲良くなるスカウトもできたり今まで仲良かったスカウトとも再会することができました。

久しぶりの再会
このジャンボリーでは個人的な目標が他にもありました。去年夏東京で開催されるはずだった18NSJは各地開催となり、僕は岡山県選代表として秩父サテライトで行われた県選代表キャンプに参加しました。そこで出会った友達とこのWSJで再会を果たすことです。韓国入りの空港から会ったり、もちろん会場内でも。再会した時はとてもうれしく避難所での自由時間では集まって過ごすこともありました。全国に友達がいるっていいことだと実感しました。

25WSJに参加して
今回25WSJに参加して大きく自分の価値観が変わりました。最初は異文化に興味もなければ触れたいとも思わない気持ちで韓国入りをしました。エントランスに入った瞬間世界各国のスカウトがいてHi!と声をかけられたり、ワッペン交換しようと尋ねられた最初はどう対応すればいいかわからなかったし正直怖かったです。会場入りをして最初に思ったことが「施設が汚い」です。サイトの土地も良い環境とは言えず、トイレは臭い、シャワー室は土や虫だらけ。どうここで2週間弱過ごすのかとずっと自問自答をしていました。あまり外国スカウトに心を開けずにいた自分でしたけど3日アットプログラムに行った際班員の1人が携帯を貸してくれたりして自分がISTや警察の人に尋ねたり、対応したりしている中で「自分の英語で意思疎通ができるんだ」と外国人とのコミュニケーションに自信が持て、そこから設教的に交流するようになり、自然に雰囲気、施設、人含めその環境に慣れていきました。日本で普段通ってしていて、あまり感じることのない異文化やその国の国民性を生で感じ内面的であった自分が異文化に触れ幅広いものを経験したいと思い始めました。最初の目的は「外国の友達ができればいいや」と思っていたのが「外国の友達が欲しい」となり異文化について知ることや肌で感じることが多文化共生の現代で何より大切なんだと実感できました。それらのことを次回ボーランドで開催されるジャンボリーに行くスカウトはもちろん、後輩に伝えることが必要と強く感じました。僕も今は友達に会うために次回大会へのISTとして参加を希望しています。施設や環境の不満、プログラムのクオリティ、食料の問題や熱中症患者の多さなど期待していたものとは全く違いましたがその環境で全力で楽しむことも できたと思います。今回の出会いも大切に学んだことも大切にこれからの人生で活かせるものしか得れなかったと思っているのでスカウト活動はもちろん、これからの生活で活かせるものは活かしていこうと思います。忘れられない夏になりました。

ボーイ隊 天野佑紀

「２５ｗｓｊの報告書」　2023 年 8 月 15 日火曜日
天野　佑紀

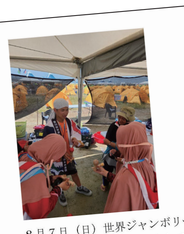
大会名：第 25 回世界スカウトジャンボリー（25th World Scout Jamboree）
主　催：世界スカウト機構(WOSM)
ホスト：韓国スカウト
日　時：2023 年 8 月 1 日（火）～8 月 12 日（土）
場　所：大韓民国　全羅北道　セマングム
テーマ：Draw your Dream!（あなたの夢を描こう）
参加者：世界スカウト機構(WOSM)正加盟の 173 の国と地域他から合計 50,000 人

7 月 29 日（土）事前訓練 1 日目
朝の 9 時ぐらいに吉備サービスエリアに集合し、そこからお昼にかけて新大阪ユースホステル・KOKOLLAZA に行った。お昼に開会式・オリエンテーションを行った。午後に JTB の説明を受けた。
7 月 30 日（日）事前訓練 2 日目
午前中は分団集会を行った。午後に持って行く荷物の確認をした。夜に結団式と激励会をした。寝る前に日本派遣団のネッカチーフが配られた。
7 月 31 日（月）事前訓練 3 日目
早朝に新大阪ユースホステルから関西国際空港に行き、そこからお昼にかけて関西国際空港から飛行機で仁川国際空港に着いた。そこからホテル YMCA に泊まった。

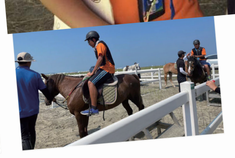
（機内食）

（ホテル YMCA）

8 月 1 日（月）世界ジャンボリー1 日目
ホテル YMCA から 4.5 時間かけてジャンボリー会場の全羅北道 セマングムに着いた。先に、荷物を置いて外国人 IST（国際サービスチーム）の人の説明を聞いた後に自分たちのサイトに行きテントを建てた。
8 月 2 日（火）世界ジャンボリー2 日目
夜に世界ジャンボリーの開会式が行われた。ライブみたいだった。韓国の大統領の演説を聞いた。



8 月 7 日（日）世界ジャンボリー7 日目
場内プログラムがおこなれていたので乗馬体験とテコンドーをした。最後のワールドスカウトショップに行き、団の後輩たちにおみあげを買った。



8 月 8 日（月）世界ジャンボリー8 日目
台風の影響で、日本派遣団は救仁寺に避難した。

＜世界ジャンボリーを通して＞
僕はこの大会に参加することによって、生まれて初めての体験をたくさんしました。それはパスポートを取得して、飛行機で海外に行き、現地で韓国の食文化を体験し、世界中の国のスカウトと触れ合えたことなどと幅広い経験ができたことです。
今回は、熱中症で多くのスカウトが病院に搬送されたり、水回りや食料が不衛生で体調を崩すスカウトもいましたが、僕は無事でした。
世界ジャンボリーの終盤に台風が来たため、期間中に撤収を余儀なくされました。だから、寺に避難しました。
環境は最悪でしたが、世界中のスカウトとと交流できたことにより、視野が広がり色々なことに興味を持つことが出来ました。

ボーイ隊 妹尾幸星

僕は今回の第二十五回ワールドスカウトジャンボリーに行き、ジャンボリーに行く前に立てた「外国のスカウトとたくさん接する」という目標を達成することができました。
子供のうちに、一箇所で様々な国の人と触れ合う機会というのは本当にジャンボリーだけだと思います。
だからこのチャンスを活かし様々な国の人と関わりたいと思いこの目標を立てました。
実際に行ってみると空港で外国のスカウトと出会い少し話したりと思ったよりも気軽に話せることがわかりました。
また、大会会場に行ってみると「Are you Japanese?」と聞かれたり、「コンニチハー」と話しかけてくれたり、
たまに日本語を話す人もいたりして多くの人と交流することができました。
水を汲みに行っただけでも色んな国の人がいて、「Where are you from?」といる人に聞くのが面白かったです。
文化交流デイでも、自分の隊のテントでもてなしていたら多くの国の人が来てくれてたくさんお話をしました。
僕と同じ年なのに僕より一回り、二回り大きい女性もたくさんいて面白かったです。
僕はその時、チーフにポケモンのチーフを数珠繋ぎにしていたのですが多くの外国人がポケモンを知っていてびっくりしました。ポケモンを知っている人とはなんのポケモンが好きかなどを話したりしました。
このように多くの人と交流を深めることができました。
また、僕は精神面で大きく成長することができました。
普段の自分の生活圏とは異なる価値観の方々に触れる事が出来、世の中には様々な方が居られるということを学べました。
また僕は元々、不満を受け容れられない性格だったのですが、ジャンボリーに行き、出会った副長や僕の班の班長が自分とは異なる考え方でしたので、歩み寄る心が身につきました。
このようにして僕はジャンボリーに行き、無事目標を達成し、成長することができました。
これからもスカウト活動を熱意を持って続けていきたいです。
以上